

進む！ICTの利活用～R3管内各校の実践から～



令和3年度は、北部管内の小・中・義務教育学校すべての児童・生徒一人一人にタブレット端末が整備された「GIGAスクール元年」でした。
各学校の実態に応じた、ICTの活用に取り組んでいただいております。
今回は、「教科等の特質に応じた効果的なICT活用による授業改善」について効果的な取組の一部を紹介します。

I ICT活用推進モデル校からの学び

令和3年度は、〈延岡市立伊形小学校〉と〈日之影町立日之影中学校〉が、県のICT活用推進モデル校の指定を受け、授業におけるICTの効果的な活用について研究を進めていただきました。今回は、研究公開及びオンライン協議会（R4.2.7）でも高く評価された2校の研究結果から「組織的なICT活用推進」について紹介します。



<伊形小学校> 研究推進スローガン「できる範囲で、できることを、とにかくやってみよう」

主な取組

①「職員の間接を変える」

Googleドライブやカレンダーを校務に活用したり、推進教員が作成した小テストを使ったりと「ICT活用のメリットを教師自身が実感する」ことから始めました。

②「子供の不安を取り除く」

ICT活用において「子どもが間違えるのは当たり前のこと、叱るのではなく一緒に考える」というスタンスで取り組みました。

③「希望制の自主研修」

オープンチャット機能を活用し、個別相談や情報共有ができる体制が整備されました。



図1 小テストの例

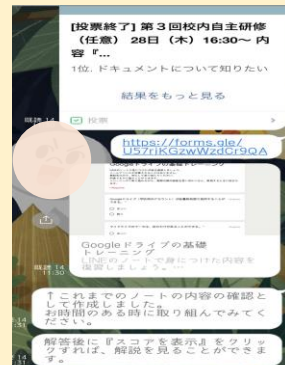


図2 オープンチャットの例

<日之影中学校> 研究推進スローガン「やってみよう、失敗・問題ありき、とにかく挑戦」

主な取組

①「先生方との連携」

年度初めにICT活用に関するアンケートを実施し、不安や課題を共有することから始めました。また、定期的にICT活用通信を発行し、効果的な活用方法を共有できる体制をとりました。

②「生徒への手立て」

複数回のICT活用集会を全校生徒対象に開き、タブレット配付の目的やルールを再確認しました。また、町教育委員会からインターネット検索時のブロック数の記録提供を受け、適切なICT活用について、生徒自身に考えさせる場面を設定しました。

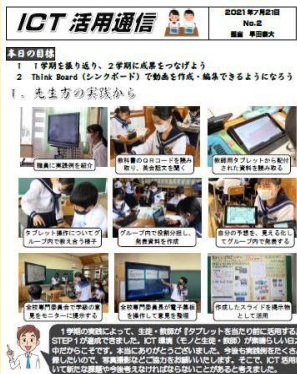


図3 ICT活用通信の例



図4 ICT活用集会の様子

2 管内の小・中・義務教育学校からの学び



各学校に導入された端末や授業支援アプリ等については、市町村ごとにちがいはあるものの、それぞれの特長を生かした活用が進んでいます。

小学校・第6学年・図画工作「作品の良さを味わおう」

友達の作品を鑑賞の視点に沿って撮影し、自席で鑑賞しながら、作品の良さについてタブレットに文章を打ち込みました。また、作品の良い部分分かるように、写真に図や文章を書き込み、それらの文章や写真を使いながら発表することで、作品の良さや気づきを分かりやすく伝えることができました。

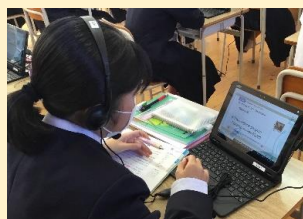
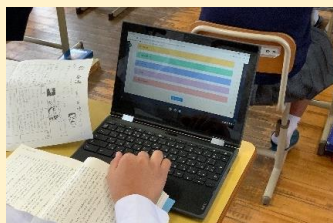
図5 文章や写真を使って発表する様子 ▶



小学校・第6学年・国語「たのしみは」

短歌の「五・七・五・七・七」の区切りごとのカードを用意し、順序を並び替えることを通して短歌の構成を考えました。個人思考やペアでの話し合いで、入れ替えをしたらどのような印象になるのか、入れ替えることで言葉のつながりをどのように変えなければいけないかなどの思考・判断・表現のツールとなっていました。

図6 操作の説明やペアで話し合う様子 ▶



中学校でもアンケート回収や録音機能、ドリル教材の活用など効果的な活用がたくさん見られました。

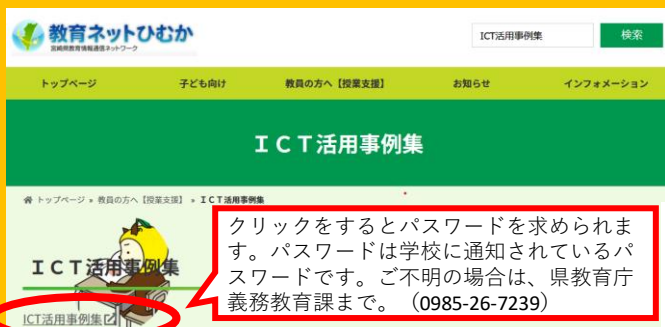
通信環境等に左右されないカメラ機能等の活用は、探究学習の情報収集や見学、観察・実験等で有効な活用事例として多くの学校が実践しています。



3 先進的な事例からの学び



県教育研修センターHP内「ICT活用事例集」では、ICT推進モデル校の授業事例等が紹介されています(図7)。また、文部科学省のStuDX Styleのページにも校種・教科別に活用事例が紹介されています(図8)。今年度も、児童生徒の資質・能力の向上のために管内で一体となって推進していきましょう。



クリックをするとパスワードを求められます。パスワードは学校に通知されているパスワードです。ご不明の場合は、県教育庁義務教育課まで。(0985-26-7239)



こちら

各教科等における1人1台端末の活用



図7 県教育研修センターのWebページ

図8 StuDX StyleのWebページ